

## 誰の責任でもない仕事

掃除がおっくうな人、楽しんでやれる人の違いとは

Jさんが住むマンションでは、自治会の企画で毎月、清掃活動が行われています。不参加だったJさんですが、「ずっと出ないのも気が引けるし、一回くらい出てみるか」と参加を決めました。当日は周辺の掃き掃除<sup>そうじ</sup>。落ち葉が多くてなかなか重労働です。休憩時間になるとMさんがお茶を手話にかけてきました。

「お疲れさまです。今の季節は落ち葉が多くて、掃除もやりがいがありますね」

Jさんは世間話のついでに、いろいろと聞いてみることにしました。

「僕は今日で二回目なんですけど、なかなか大変な作業ですよね。正直、今朝は出てくるのもおっくうで……」

すると、Mさんがこんな話をしてくれました。

「僕も初めはそうでしたよ。実際、結構疲れますしね。でも、あるとき、会社でちょっとした出来事があった。会社の印刷室が散らかっていたとき、なんとなく片付けてみたら、

同僚に『おかげで気持ちよくコピーができたよ』って言われたんです。掃除って、僕はずっと汚れたところをきれいにする以上の意味はないと思っていたんですが、次にその場所や物を使う人が気持ちよく使えるようにするためでもあるんだなって、そのときに初めて気がついたんですよ。それから、この清掃活動にも少し違った気持ちで参加できるようになった気がします。

それともう一つ。うちの上司の口癖が『いやいや仕事をするのは、時間と労力の無駄。自分なりの意味を見つけられるように、視点を変えてみる』でね」

「おもしろい上司の方ですね。でも、なかなか奥が深い言葉だ」

休憩時間の後、Jさんはその会話の流れで、Mさんと一緒に雑談を交えながら掃除をしました。

そして、その日は少しか参加してよかったな”と思えたのでした。